

第3章 防災まちづくりの目標

(1) 目指すまちの将来像（こんなまちになつたらいいなあ）

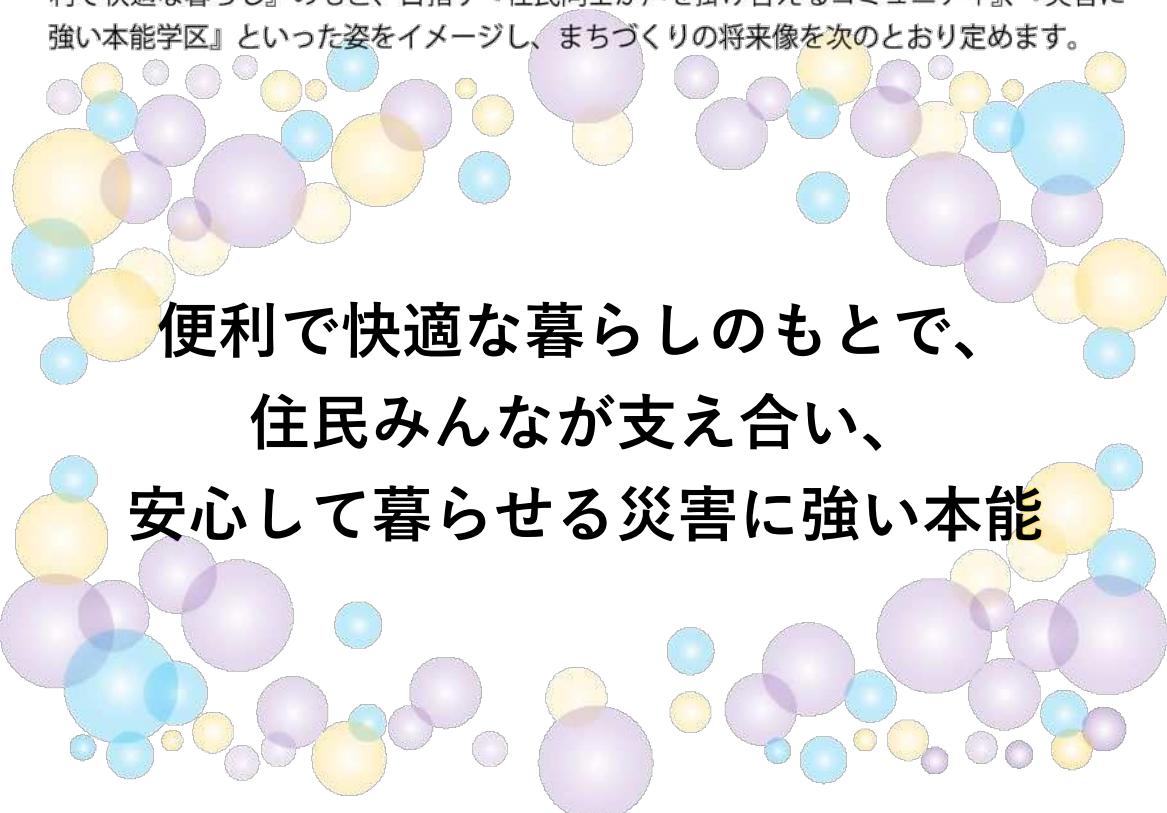
近くにお店や病院があり生活しやすい、四条通や堀川通が近く移動しやすい、地下鉄やバスを利用しやすく便利な本能学区。しかし、学区の中では、古い木造の建物が密集しているところや幅員の狭い道があり、町内会では高齢者や体の不自由な方が増えたり、顔見知りが少なくなったり、町内会に入らない人も増えてきています。

これらは、「防災まちづくり」に関する住民アンケート調査などで、住民のみなさんから多く寄せられた意見です。

一方、本能学区は「染め」のまちの素地を背景として、住民同士の日頃からのコミュニケーションや活発な地域コミュニティがつくられており、こうした日々の暮らしの中で、子育て世代の人が住みたくなる子育てしやすいまち、高齢者や体の不自由な人が安心して住み続けられるまち、日頃から声を掛け合う人と人のつながりのあるまちに対する期待も多くありました。

阪神・淡路大震災でも、地域の人々が壊れた住宅から多くの被災者を救出し、被災後の生活でも地域の人々が支えあい、助け合ったように、災害に強いまちになるためには、地域の人々がともに助け合えるような関係をつくっておくことが不可欠です。

こうしたことを踏まえ、本能学区の強みである、市の中心部に位置することによる『便利で快適な暮らし』のもと、目指す『住民同士が声を掛け合えるコミュニティ』、『災害に強い本能学区』といった姿をイメージし、まちづくりの将来像を次のとおり定めます。



(2) 目指すまちの将来像を実現するための目標

目指すまちの将来像
(こななまちのなつたうじやう)

便利で快適な暮らしのもとで、住民みんなが支え合い、安心して暮らせる災害に強い本能

目標
1

ご近所、町内の繋がり、助け合いで 安全な「暮らし」をつくる

隣近所、町内のみんなの顔が見える関係を大切にし、普段から、お互いに助け合える繋がりをつくりましょう。
一人ひとりが「防災」に対する意識を高めるとともに、町内の防災力を高めていきましょう。

目標
2

京都らしさを大切にしつつ、 災害に強い「いえ」をつくる

京都らしい風情ある町並みを大切にしつつ、地震が起こった時でも倒れにくく、燃えにくい家づくりに取り組みましょう。
空き家や民泊のことも考えていきましょう。
マンションも、災害に備える力を高めていきましょう。

目標
3

日々の暮らしを支え、災害時にも 安全に避難できる「みち」をつくる

堀川通や四条通とともに、油小路通や蛸薬師通等は、災害時にも「地域の集合場所」や避難所に安全に避難できる「みち」にしていきましょう。
路地の雰囲気を大切にしつつ、路地の安全性を高めましょう。

目標
4

地域の特徴を活かした 安全な「まち」をつくる

「碁盤の目」といわれる京都の町割りや、本能自治会館や堀川高校などの施設、ホテルやマンションなど、学区の特徴を活かした安全な「まち」をつくりましょう。
住民参加のもとで避難所の機能の向上に取り組みましょう。

(3) 方針と具体的な取組のアイデア

目標 1

ご近所、町内の繋がり、助け合いで 安全な「暮らし」をつくる

これまで育んできた地域コミュニティや、隣近所、町内のみんなの顔が見える関係を大切にし、普段から、お互いに助け合える繋がりをつくりましょう。

災害時には、「自分の身、自分の家族、自分の地域は自分で守る」という基本的な考え方のもと、一人ひとりが「防災」に対する意識を高めるとともに、住民同士が支え合い、協力しながら安心・安全に暮らせるよう、町内の防災力を高めていきましょう。

方針① 隣近所、町内の繋がりを育む

「染め」のまちとして育まれた豊かな地域コミュニティを大切にして、ご近所付き合いや町内の住民の交流を図り、お互いに助け合える繋がりをつくりましょう。

【具体的な取組のアイデア】

- ◆お互いに近所付き合いを心掛けておく。何気ない会話を常日頃から心掛ける。
- ◆町内の祭事やイベントなどの機会を増やし、顔なじみをつくる。防災の話をする。
- ◆子どもが参加できる取組、マンション住民の方が参加しやすい取組を企画する。

方針② 一人ひとりが「防災」に対する意識を高める

一人ひとりが「防災」に対する意識を高め、一人ひとりが災害時に適切な行動をとれるよう、日頃から準備しておくことを心掛けましょう。

【具体的な取組のアイデア】

- ◆防災訓練や防災まちあるきに参加し、日頃から防災のことを考える。
- ◆災害が起こった時に、自分ができること、家族で連絡を取り合う方法などを、事前に家族みんなで話し合っておく。



方針③ 町内の防災力を高める

災害が起こった際に住民の安否確認や救出救護に取り組めるよう、普段の生活から町内の防災力を高めましょう。

【具体的な取組のアイデア】

- ◆高齢者や体の不自由な方と日常的に挨拶などのコミュニケーションをとっておく。
- ◆防災グッズを町内で共同購入し、住民に安く普及する。



▲防災部長研修

目標 2

京都らしさを大切にしつつ、 災害に強い「いえ」をつくる

京都らしさが残る風情ある町並みを大切にしつつ、地震が起きた時でも倒れにくく、燃えにくい家づくりに取り組みましょう。身近にある空き家や民泊についても、災害時を見据えた取組を考えていきましょう。

マンションは、災害時の大きな揺れへの対策から被災後の復旧の備えまで、事前にできる対策を考え、災害に備える力を高めていきましょう。

方針④ 自宅の安全性を高める

自分の命や財産を守るために、家具の転倒防止や倒れにくく燃えにくいようにする改修など、できることから災害に強い家づくりに取り組みましょう。

【具体的な取組のアイデア】

- ◆家具の転倒防止や感震ブレーカーへの入れ替えなど、できる対策から取り組む。
- ◆自宅の適切な維持・管理、耐震性の確認、耐震改修や防火改修に取り組む。
- ◆高齢者の世帯にIHクッキングヒーターへの切り替えを促す。

方針⑤ 空き家の対策や民泊の対応を考える

町内で空き家を把握したり、災害時に民泊と連携・協力できる体制づくりなど、空き家の対策や民泊の対応を考えておきましょう。

【具体的な取組のアイデア】

- ◆空き家を確認し、防犯防災に備え、点検対策を事前にしておく。
- ◆災害時に安全確認が必要かどうかが分かるように、空き家を誰にでも分かるようにしておく。

方針⑥ マンションの災害に備える力を育てる

マンションは倒れにくく燃えにくい一方、高層階で揺れが激しくなるなど、マンション特有の問題があります。マンションの特徴を理解し、住民が協力し合い災害に備える力を高めましょう。

【具体的な取組のアイデア】

- ◆電気や水道が停止した場合の対策などに取り組む。
- ◆マンション単独ではなく、町内会と連携した防災訓練の実施。
- ◆世帯数や家族構成などマンションの状況に合った防災組織をつくる。
- ◆地震保険の普及啓発など、マンション住民が協力して震災後の復旧を見据えた対策に取り組む。



▲学区内のマンション

目標 3

日々の暮らしを支え、災害時にも 安全に避難できる「みち」をつくる

市の広域的な幹線道路である堀川通や四条通とともに、学区の防災上重要な道路となる南北の油小路通や東西の蛸薬師通等、町内の主要な道となる小川通と醒ヶ井通は、災害時にも「地域の集合場所」や避難所に安全に避難できる「みち」にしていきましょう。

風情ある路地の雰囲気を大切にしつつ、複数方向への避難経路を確保するなど、路地の安全性を高めましょう。

方針⑦ 避難できる「通り」を整える

油小路通や蛸薬師通など、日常生活を支える学区の防災上重要な道路や、小川通と醒ヶ井通の町内の主要な道は、災害時に住民の避難を支える「通り」として、日頃から避難経路としての安全性を確認しておきましょう。

【具体的な取組のアイデア】

- ◆学区の防災上重要な道路や町内の主要な道は、沿道の建物の耐震化や防火改修を促進する。
- ◆学区の防災上重要な道路のうち、幅員が4m未満の道路や町内の主要な道は、建替えに合わせて4m以上の幅員を確保する。
- ◆自転車や植木など、自宅周りの整理・整頓を心掛ける。
- ◆日頃から不法駐車のない見通しの良い道路にする。
- ◆日頃から、自宅から「地域の集合場所」、「地域の集合場所」から避難所までの避難経路を実際に歩いて安全性を確認しておく。



▲油小路通

方針⑧ 「路地」の安全性を高める

将来にわたって京都らしい風情ある路地を継承していくよう、複数方向への避難経路を確保するなど、路地の安全性を高めましょう。

【具体的な取組のアイデア】

- ◆袋路（行き止まりの路地）は複数方向に避難できるようにする。
- ◆袋路（行き止まり路地）や細い路地の入口部の建物等が倒れないよう安全にする。



▲緊急避難扉の設置

目標 4

地域の特徴を活かした 安全な「まち」をつくる

「碁盤の目」と言われる京都の町割りがしっかりと残るまちの空間や、学区の中央に立地する本能自治会館や堀川高校、堀川通や四条通の沿道のホテルやマンションなど、学区の特徴を活かした安全な「まち」をつくりましょう。

避難所運営ゲームなど、住民参加のもとで避難所の機能を高める活動にも取り組みましょう。

方針⑨ 「地域の集合場所」の安全性を高める

災害が起こった際に町内の住民が集まり、安否確認や救出救護の活動を行う場所であるため、日頃から周囲の安全確認をしておきましょう。町内の住民で「地域の集合場所」を共有しておきましょう。

【具体的な取組のアイデア】

- ◆一人ひとりが「地域の集合場所」を確認する。
- ◆町内会の掲示板などに「地域の集合場所」のマップを設置する。



▲防災まちづくりマップ

方針⑩ 避難所の防災機能を高める

住民等の生命の安全確保を目的として、災害時の一時的な避難生活を送る場所となる避難所の機能を高めましょう。

【具体的な取組のアイデア】

- ◆簡易トイレなど、防災機能を充実する。
- ◆避難所運営ゲームなど、住民参加のもとで避難所の機能を高める活動に取り組む。



▲避難所運営ゲームを通じた避難所の防災機能の強化

方針⑪ 地域の宿泊施設等と連携する

様々なお店や事業所、ホテルやマンションなどが立地する特徴を活かし、ホテルなどとの災害時の連携・協力体制づくりを進めていきましょう。

【具体的な取組のアイデア】

- ◆非常時に避難所が3密とならないよう、学区内のホテルの空き部屋を利用できるよう平時から協定を結んでおく。
- ◆町内会として、災害時にマンションやホテル等との連携を考え、働き掛ける。
- ◆豪雨等による水害時にはマンションの高層階に避難できるような環境づくり。

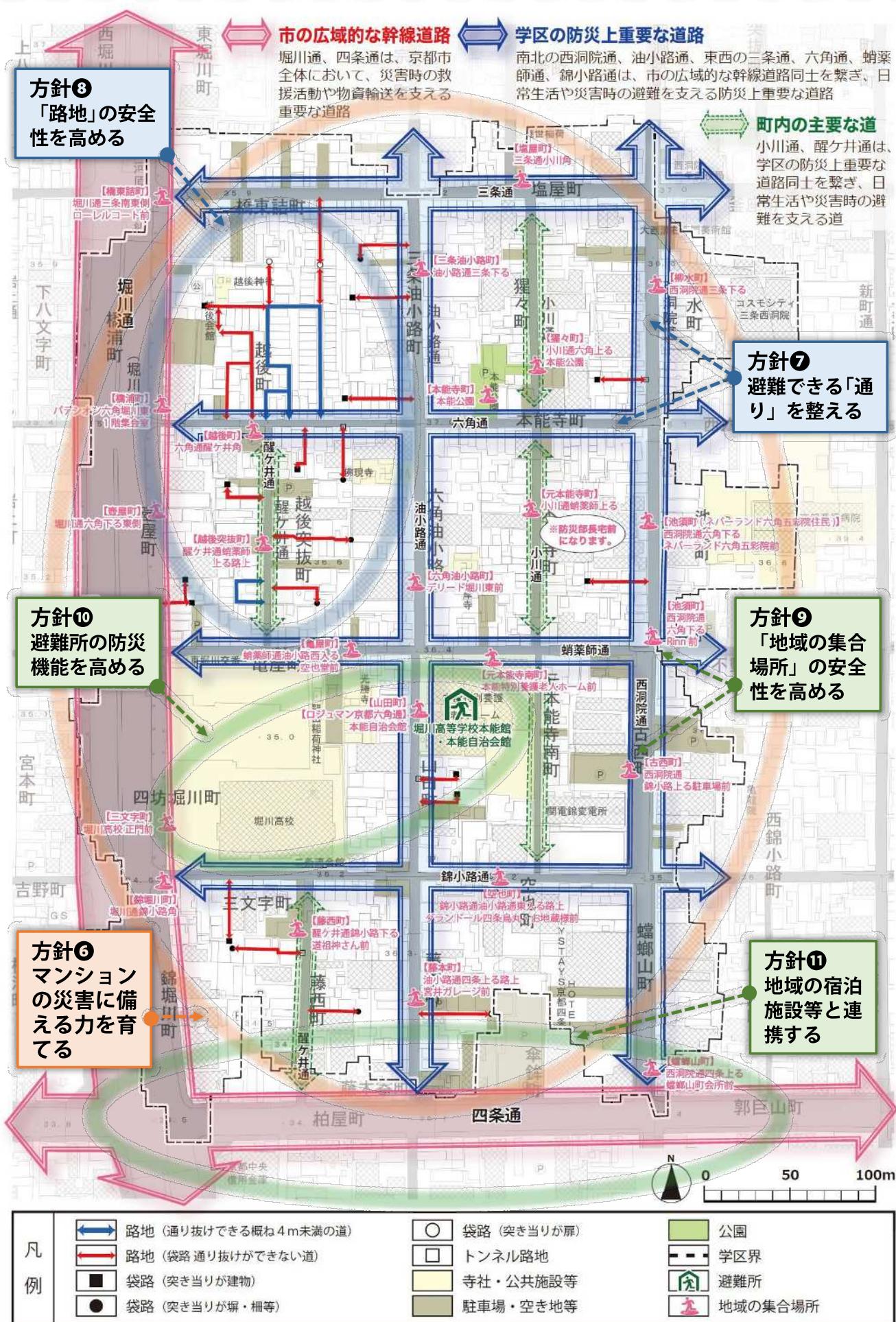


図 防災まちづくり方針図